

59 発達障害のあるモデル事業利用者における就職活動の準備支援

自立支援局 小林菜摘・四ノ宮美恵子・遠藤明宏
植木朋子・梅本佳奈子・平野友梨
病院 車谷 洋

1. はじめに

青年期発達障害者の地域生活移行への就労支援に関するモデル事業において、就労を目的とした支援を、自己理解・他者理解・社会的規範の理解の三本柱で行ってきた。その延長上に就職活動の準備支援（図1参照）を位置づけた。就職活動の準備支援では、履歴書等応募書類の作成や就職活動時の身だしなみの指導にとどまらず、社会人としてのあり方を認識し、社会的な適応行動を獲得することを目指した。ここでは、事例を通して就職活動の準備支援について報告し一般就労を目標とした効果的な就職活動の準備支援の方法について考察する。

2. 事例報告

(1) 対象者

自閉性障害（DMS-IV）、精神保健福祉手帳2級、大学中退、アルバイト歴有り。

(2) アセスメントと支援方針

アセスメントを行った結果、過去の失敗経験から自分自身に対する劣等感と社会に対する強い不信感が認められ、生活習慣と社会的ルールを理解に課題があることがわかった。そこで、利用開始時の本人とご家族の希望に沿って、生活習慣を整えることと本人が独自の理解をしている社会的なルールを社会的規範に沿って理解することを中心とした約9ヶ月間の支援計画を作成した。

(3) 経過

表1のような経過を経て、利用期間15ヶ月で事務職にて就労した。

表1. 事例の経過

期間	主な取り組み活動	主な取り組み課題	達成された主な課題
第Ⅰ期 (1ヶ月～3ヶ月)	過去の体験の整理 様々な作業体験	自己の能力の把握	過去の体験の意味づけ 自己の特性の体験的理解
第Ⅱ期 (4ヶ月～6ヶ月)	行事への参加	自己の役割の認識 他者の役割の認識	自他の違いの体験的理解
第Ⅲ期 (7ヶ月～12ヶ月)	地域の支援機関への登録 センター内実習・企業実習 生活環境の整備	社会的マナーやルールの体験的学習	「組織」への帰属意識 社会的マナーやルールの体験的学習 社会的規範の体験的理解
第Ⅳ期 (13ヶ月～15ヶ月)	就職活動に必要な書類の作成 面接練習 就職活動	自己の障害理解	「組織」の規範に沿った行動化 過去の体験の受容

3. 考察

就職活動の準備支援は、訓練・行事・実習のそれぞれの体験を、求職活動や履歴書等応募書類の作成、就職面接の参加などを通して「就労」という文脈で整理し直し、社会的規範に沿った意味づけをしていく過程であった。生活環境の整備においても「就労」という文脈での意味づけを行うことで、生活習慣にも社会的規範に即した改善が見られた。単なる履歴書等応募書類の作成や身だしなみの指導にとどまらず、社会的規範に沿った体験の意味付けを行うことで、「組織」の規範に沿った行動化が見られ、就労につながったものと考えられた。

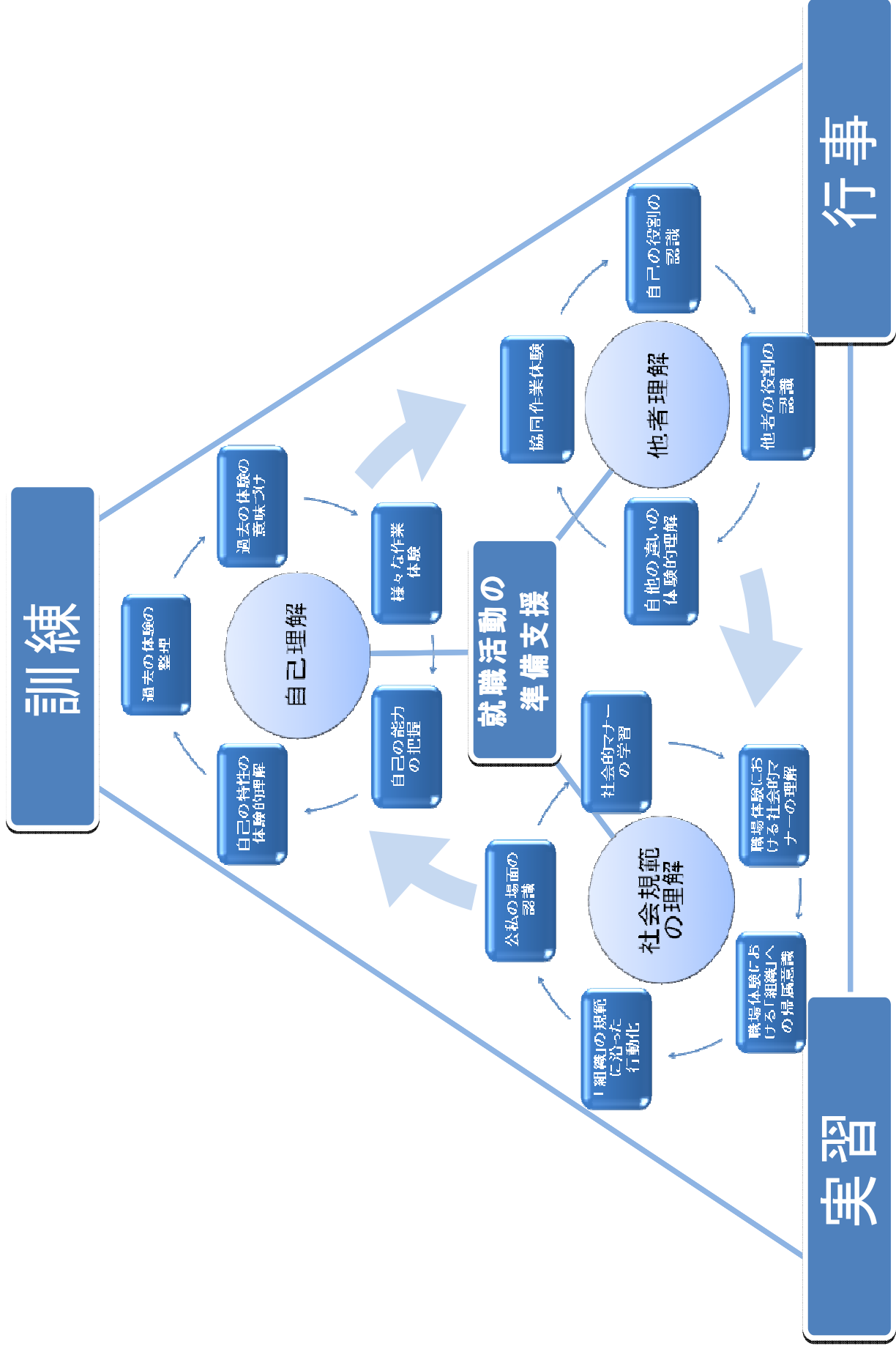


図1